

2019年度

環境経営レポート

(対象期間 2019年4月～2020年3月)



発行 2020年5月15日

入間川ゴム株式会社

1. 事業所の概要及び登録範囲

事業所

事業所	入間川ゴム株式会社・本社工場
代表者氏名	代表取締役社長 清水 佑樹
環境管理責任者	池田 隆直
事業内容	工業用ゴム製品製造・販売
主要製品生産重量	3,400 トン
従業員数	119 名
所在地	埼玉県狭山市入間川 1-15-40
電話番号	04-2953-3131
床面積	9,621 m ²

事業所

事業所	大阪支店
所在地	大阪府東大阪市楠根 1-8-3
電話番号	06-6746-2551
従業員数	8 名
床面積	222 m ²

事業所

事業所	名古屋営業所
所在地	愛知県名古屋市中区金山 3-12-13
電話番号	052-331-6256
従業員数	3 名
床面積	165 m ²

2. 環境経営方針

入間川ゴム株式会社 環境経営方針

<環境理念>

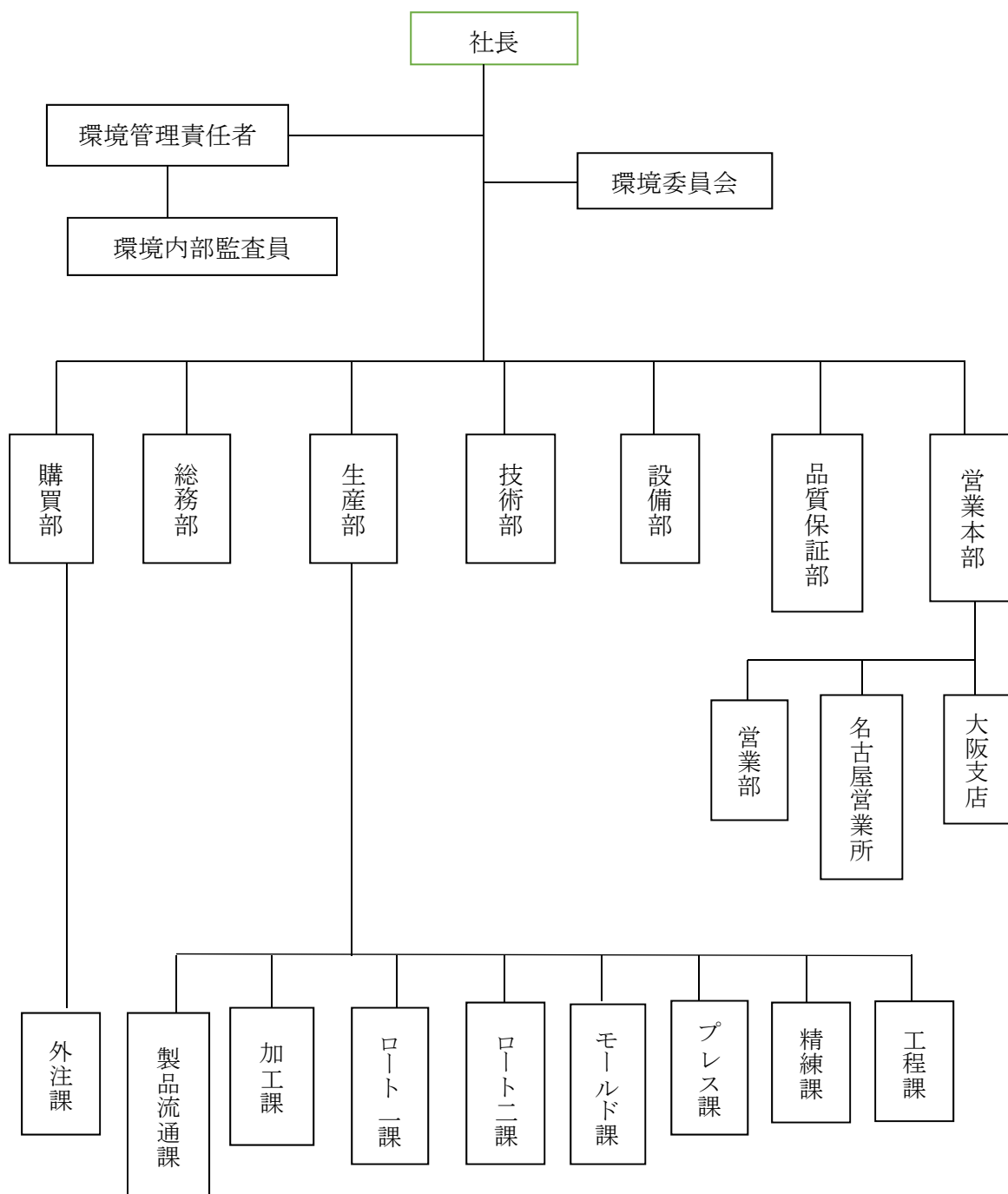
入間川ゴム株式会社は、環境負荷低減に向けた活動により、人と環境にやさしい事業活動を目指す。

<環境基本方針>

1. 事業活動を通じて省エネルギー、省資源の推進を図る。
2. 事業活動によって生じる廃棄物の削減及びリサイクルに取り組み、環境や資源に配慮した製品づくりを心がける。
3. 環境関連の法規制を遵守する。
4. グリーン購入に努める。
5. 化学物質排出量削減に努める。
6. 環境に対する方針を、全社員に周知する。
7. 環境目標を設定し、それに取り組み、定期的に見直しをすることにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。

2019年4月1日
入間川ゴム株式会社
代表取締役社長
清水佑樹

3. 実施体制



4. 環境目標と実績

1) 2019年度本社環境目標と中期目標

2018年度の実績を基に基準値として2019～2021年度の3ヵ年計画を策定した。

本社工場

項目	目標値	基準値	2019年度 目標値	2020年度 目標値	2021年度 目標値
CO2 排出削減	生産重量当りCO2 排出量削減 <u>21年度は18年度比97%以下</u> CO2/生産重量	0.600 (トン/トン)	0.594 以下	0.588 以下	0.582 以下
廃棄物削減	生産当り廃棄物最終処分量 <u>21年度は18年度比91%以下</u> 廃棄物最終処分量/生産重量	0.0454 (トン/トン)	0.0440 以下	0.0427 以下	0.0413 以下
水使用量の削減	生産重量当り地下水使用量削減 <u>21年度は18年度比97%以下</u> 地下水使用量/生産重量	1.45 (m3/トン)	1.44 以下	1.42 以下	1.41 以下

CO2 排出係数：電力 0.462(CO2-kg/kWh)[東京電力エナジーパートナー2017年度 CO2 排出原単位調整後] 都市ガス 2.16(CO2-kg/m3)

項目	目標	基準値	2019年度 目標値	2020年度 目標値	2021年度 目標値
グリーン購入	環境適合商品の購入 (品目数)	36	37	38	39
	環境負荷の小さい材料 の購入件数	5	5	5	-
化学物質削減	PRTR 物質の排出削減 主にトルエン (kg)	1,305	1,266 以下	1,227 以下	1,188 以下
製品 に関する項目	不適合率の削減* (生産部署合計 %)	4.2	4.2	4.2	-

*不適合率：生産各部署の不良率、歩留まりを集計して表した数値。

2) 2019 年度の環境活動計画と実施

項目	実施計画	実施確認
CO2 削減 電力 ガス	<p>設備更新(検討事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場内の蛍光灯を LED に交換 コンプレッサーの省エネ 貫流ボイラーの更新 プレス機の断熱板を交換 	<ul style="list-style-type: none"> LED 50 灯 2,000kWh/年) 個々のベビコン運転 2 台を効率の良いコンプレッサーから供給 1 基更新→ボイラーの熱効率 3 %アップ 大型プレス 2 基実施し放熱ロスを低減
廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> 産廃の内容を確認し、分別を徹底する。 産廃が多い時の内容を確認し、対策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴム再利用の業者が 1 社増え、引取り量は安定し増えた。 ゴム製造工程中で、夏場の中間品の不良対策によりこの分の廃棄するゴムは減った。 ゴム製品特殊品の製造が多く、中間工程での廃棄が多くなった。
水使用量	<ul style="list-style-type: none"> 異常時の早期発見と対策を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水は 5 月に一時的に増えたが、その後安定し使用量は最も少なくなった。 上水は 1 月に漏水があったため、一時的に増えた。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> 環境対応商品の優先購入、詰め替え可能な商品を購入 資材購入… 近くの工場、低エネルギーとなる大量生産・新設備の製品を購入 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も目標品種を増やし、環境商品を多く購入した。 目標 5 件、3 件実施。
化学物質	<ul style="list-style-type: none"> トルエンの使用量の削減 機械の洗浄を再検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 代替溶剤の使い方を見直し、少し改善はみられてきた。概ね昨年並みの使用量であるが、年度後半減ってきたので継続して確認する。

3) 過去3年間の環境負荷の実績

*印は環境目標

項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度
CO ₂ 排出量	CO ₂ トン	2,090	2,052	2,044
エネルギー投入量 [電力]	GJ	27,790	28,016	27,912
エネルギー投入量 [化石燃料]	GJ	15,431	14,475	14,454
*生産重量当りCO ₂ 排出量	CO ₂ トン/生産重量トン	0.646 (未達成)	0.607 (未達成)	0.591 (達成)
*生産重量当り廃棄物処分量	廃棄物トン/製品トン	0.0391 (未達成)	0.0440 (未達成)	0.0496 (未達成)
廃棄物再利用率	%	56	55	49
地下水使用量	m ³	7,154	4,095	3,730
上水使用量	m ³	1,802	1,804	2,038
*生産重量当り地下水使用量	地下水m ³ /製品トン	2.19 (達成)	1.20 (未達成)	1.09 (達成)
製品生産重量	トン	3,300	3,400	3,400

電力のCO₂排出係数は、本社工場 0.462 大阪支店 0.450 名古屋営業所 0.518

(CO₂kg/kWh) で換算、CO₂排出量、エネルギー投入量、上水使用量は全社(3事業所の合計)、その他は本社工場のデータ

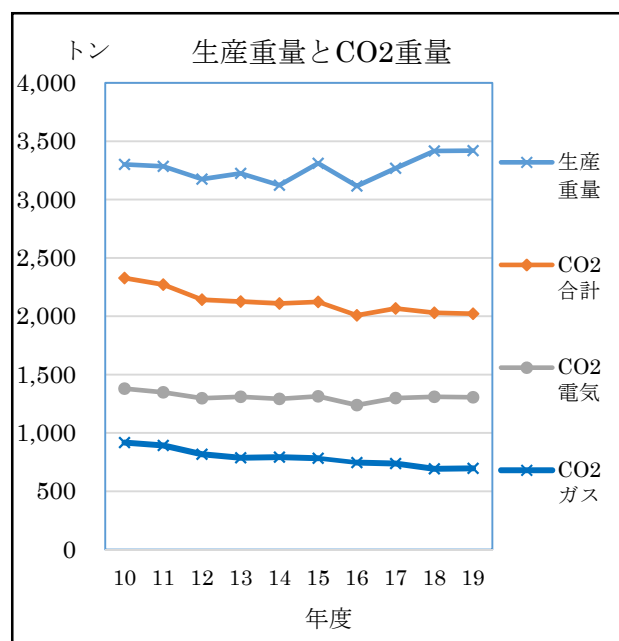
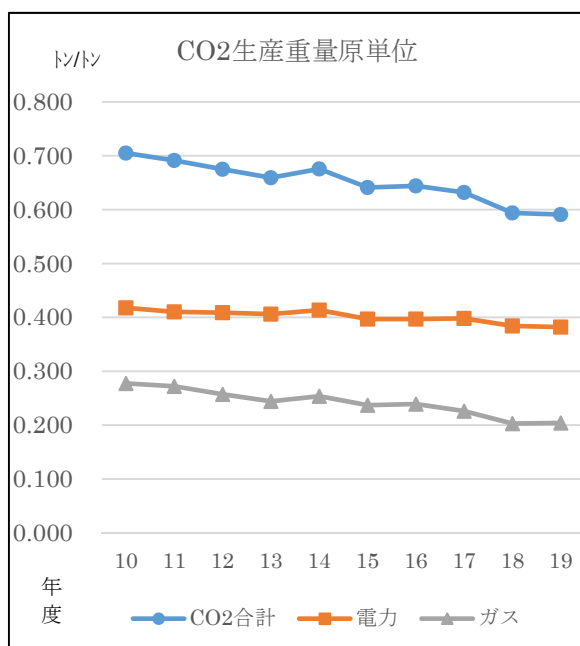
項目	内容	単位	2017年度	2018年度	2019年度
*グリーン購入	環境適合商品の購入	品目	45 (達成)	49 (達成)	56 (達成)
	環境負荷の小さい材料の購入	件	6 (達成)	5 (達成)	5 (達成)
*化学物質削減	排出量の削減	Kg	1,260 (達成)	1,360 (未達成)	1160 (達成)
*製品に関する項目	不適合率の削減	%	4.19 (達成)	4.49 (未達成)	4.45 (未達成)

4) 2019年度の取組結果とその評価

① CO₂

CO₂の排出量は生産量に依存するので、環境経営目標は生産重量原単位〔CO₂トン／生産重量〕で見えており、省エネパトロール等実施して改善に努めており 2019年度は目標達成しています。

経年的にも生産重量原単位 3年間で 8.2%、10年間で 16%改善しております。



2019年度は蒸気用ボイラー1基更新し、それ以前に大型チラー2基、水銀灯を無電極プラズマランプに交換、蛍光灯照明をLEDに交換など行って、また生産性も少しずつ改善し蒸気用のガスの低減効果が大きく経年的に削減しております。

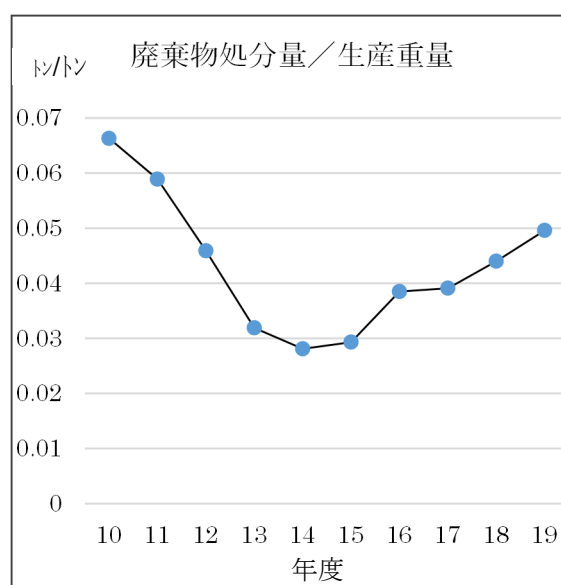
② 廃棄物削減

環境経営目標は、産業廃棄物の廃プラ／生産重量の原単位でみており、その大半が廃棄ゴムであり、最終処分となる廃棄物を削減することとしております。

廃棄するゴムは、再利用用途別に分別し処理委託して産廃量を減らしてきました。

2016年度からは燃焼用として一部使えなくなりこの分が産廃となり増えています。

2018年度は夏場の不良が多く増え、2019年度は特殊品が増えたことと現状の生産方法では、再利用できない廃棄ゴムが多くなる傾

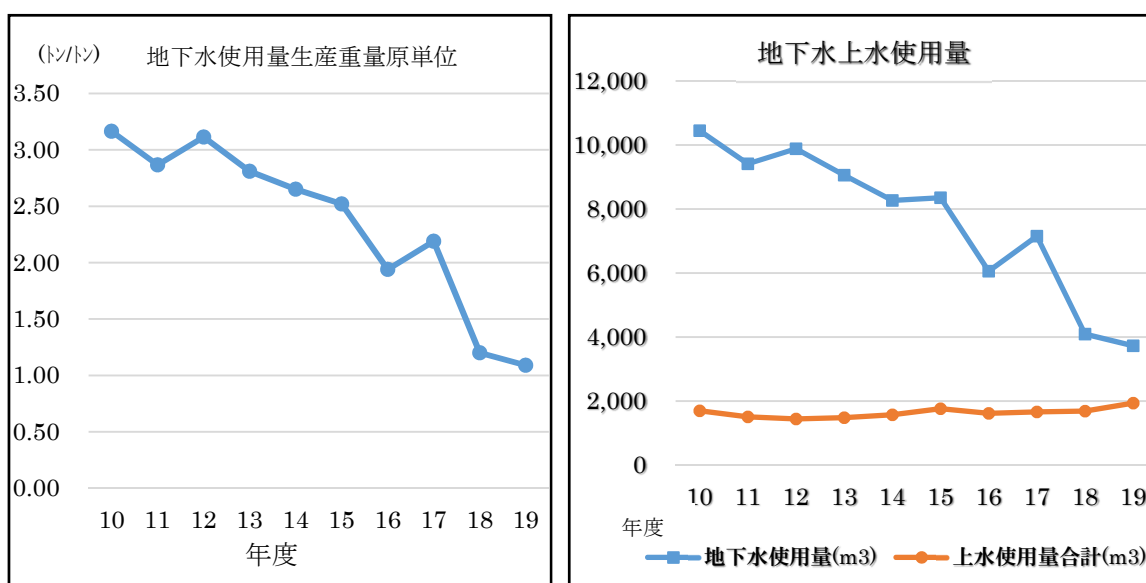


向があります。

③ 水使用量の削減

水使用量の削減は使用量の多い地下水について取り組んでおり、生産重量原単位 [地下水使用量ト/生産重量ト] を目標に削減してきました。主に機械の間接冷却水として使用しており、循環水の使用と設備の更新などで減ってきました。

2019年度は減っていますがこれは地下水を使用する機械の使用が少なくなったため、設備の改善がないと2020年度は少し増えるとみられます。



④ グリーン購入

グリーン商品の購入は事務用品が主であり、購入品種を増やすことを目標にして達成しており、また詰替え可能な商品の購入を進めています。

実際の生産に関わることとして、「環境負荷の小さい資材の購入」の件数を目標にしており、新しい案件が少なくなってきましたが目標件数は達成しております。

⑤ 化学物質排出量の削減

当社はP R T R物質を使用しておりますが、環境中に放出するものは溶剤が多いので、トルエンなどについて使用量の低減を目標にしております。使用量が特に多いのは大型の機械を洗浄する時で、直接製品が通るところは洗剤の最終的な使用が難しいので、なるべく代替溶剤の使用を増やしてトルエンの使用を少なくするよう進めています。

⑥ 自らが生産・販売提供する製品サービスに関する取組

不適合率の低減に取り組んでおり、毎年高い目標とし 2017 年度は目標達成し歩留まりもアップしましたが、2018、2019 年度は特定の不適合が多いなど未達成となり、その対策の他改善については全社で取り組んでおります。

5. 次年度を取組内容

1) 2020 年度の目標及び中期目標

廃棄物削減項目を除いた項目は、4.1) 2019 年度本社環境目標と中期目標の通りで、廃棄物の項目は 2019 年度の実績より修正目標とした。

項目	目標値	基準値	2019 年度 目標値	2020 年度 目標値	2021 年度 目標値
廃棄物 削減	生産当り廃棄物最終処分量 <u>20 年度は 19 年度比 90%以下</u> 廃棄物最終処分量／生産重量	0.0504	0.0440 以下	0.0450 以下 (修正)	0.0437 以下 (修正)

2021 年度は 2020 年度目標より 3%減

2) 2020 年度の活動計画

CO2 削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蒸気用ボイラーの更新 蒸気用ボイラー運転の効率化 無駄な蒸気の削減（過剰に送られている所への蒸気を削減する） ・ 省エネパトロールによる指摘改善 節電・蒸気漏れ対策・蒸気管の保温・放置されている無駄を改善する
産廃削減	未加硫、スコーチの廃棄ゴム削減の施策を実施する。 [適正な圧延等生産各部署で実施する。] 産廃が多い時の内容を確認し対策を検討実施する
水使用量削減	異常時の早期発見と対策を行う 循環水の利用に切り替える。
グリーン購入	環境負荷の小さい材料の購入を推進 グリーン商品の購入
化学物質	トルエン使用による機械の洗浄を再検討 [付近の濃度を測定し、衛生面からも考慮する]
製品に関する項目	不良原因調査・対策

3) 2020 年度の取組内容

① CO2 削減

設備としては蒸気用のボイラーの更新を検討し、約 3%程度の効率改善が期待できます。また少し過剰に蒸気が送られているところもあるので削減対策を検討します。省エネパトロールについては改善事項、見直し点が出されるので継続して実施していきます。

② 廃棄物削減

2019 年度はスポット品が多かったこと、一度圧延したゴムの再使用が難しくなっているので、適正な圧延について生産各部署で対策します。

また未加硫廃棄ゴムの再利用を検討します。

③ 水使用量の削減

現在使用量が減ってきておりこの使用量を維持することと、バルブの止め忘れと漏水があったので、これらの異常の早期発見と対策を行います。

循環水の利用により水の使用量を削減できる設備があるので、検討します。

④ グリーン購入

2020 年度もグリーン商品の購入の品種を増やすこととしております。

実際の生産に関わる項目も継続して「環境負荷の小さい材料の購入件数 5 件」とし、環境への負荷の小さい材料を購入することを目標にします。

⑤ 化学物質排出量削減

洗浄用としての溶剤の使用量は代替溶剤との使い方を再度検討し、昨年後半減ってきたので継続して実施します。また付近の濃度を測定し、衛生面からも多く使わないよう促します。

⑥ 自らが生産・販売提供する製品サービスに関する取組

2020 年度も品質目標となっている不適合率の削減について各部署に展開し、全社で取組みます。

6. 環境関連法規の順守状況

環境関連法規制については、順守すべき法令の取りまとめをし、工場立地・工業用水・排水水・大気・化学物質・騒音・振動・廃棄物・フロン・公害防止・消防等の法令のチェック項目を作成し順守する仕組みを機能させており、重要な法規に関しては違反がないことを確認しております。

なお関係当局からの違反の指摘、住民からの訴訟等について過去 3 年間ありませんでした。

・ 環境汚染の防止

測定例として次の項目があり、測定値は基準値以内でした。

公共用水域への排出水の水質汚染物質の測定（2019年4月～2020年3月）

水質汚濁物質	測定濃度平均	狭山市指導基準値
BOD (mg/L)	2 (2019年度)	25

煤煙発生施設に係るボイラーからの窒素酸化物測定値

2019年11月13日 2基測定

煤煙発生施設 (仮 No)	1	2
窒素酸化物濃度 (ppm)	46	45
規制値 (ppm)	150	

7. 代表者による全体の評価と見直し

社長、各部署長による代表者による全体の評価と見直し会議を2020年3月5日に行い、下記の項目について実施するよう指示がありました。

環境目標達成状況、環境活動計画、取組実施状況

- ① CO2削減 … 継続
- ② 廃棄物削減 … 見直し
- ③ 水使用量の削減の削減 … 継続
- ④ グリーン購入 … 継続
- ⑤ 化学物質排出量削減… 継続
- ⑥ 不適合率の削減… 継続
- ⑦ その他

- ・環境経営方針 2019年4月1日理念体系を改訂し、次年度も継続する。
- ・環境関連法規 環境関連法規取りまとめ一覧表を再確認

環境経営システムは継続的に改善させ、全員で目標達成を目指し、地域社会、取引先からも信頼されるよう環境活動に取り組む。